

兵庫県保険医協会

2016年 10月25日号 No.264

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

<http://www.hhk.jp/>

第31回支部総会・記念講演

**国民皆保険制度守り
オーラルフレイルを予防**



支部は10月2日に第31回総会を伊丹市立図書館ことば蔵で開催し、記念講演に医師・歯科医師、市民ら50人が参加した。「お口の中から考える健康長寿～オーラルフレイル（口腔虚弱）をご存じですか？」をテーマに神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授で協会理事の足立了平先生が講師を務めた。

「フレイル」とは筋力や心身の活力が低下した虚弱状態を意味するが、足立先生はフレイルに至るまでに、歯周病や歯の喪失から起こる咀嚼機能や嚥下機能の低下やオーラル

ユーモアを交えながら分かりや フレイル（口腔虚弱）が生じていると指摘。口腔機能が低
 しく解説する足立先生 下ると、食生活が悪化し、タンパク質やエネルギー不足と

下すると、食生活が悪化しタンパク質やエネルギー不足となるため、口腔の健康と体の健康は密接に関わっていることを明らかにした。高齢者の多くは身体フレイルの段階を経てサルコペニアや要介護や寝たきり状態になるため、日常的な口腔ケアなど早期に対処することが健康長寿をめざす上で大切であるとした。



また、奥歯でしっかりと噛める高齢者は転倒が少ないことや、歯がたくさん残っている高齢者は積極的に外出し、社会活動などに参加をしているデータを紹介。社会参加をすることで体を動かし、基礎代謝を高め、食欲の維持に繋がるというサイクルを作っていることを明らかにした。



口腔ケアの重要性に関する質問や意見が活発に交流された

(2面につづく)

【FAX 078-393-1802】
 大阪神支部文化企画に（ ）人参加します。

()	地区 ()
()	氏名 ()
()	医療機関名 ()
()	TEL ()
() FAX ()	

お問い合わせは 078-393-1817 有本まで

句会の雰囲気を知りたくて、お誘いいただき、ついに本純子先生（俳号　品川純胡。俳句結社「雲雀（ひばり）」主宰）と一緒に俳句のたしなみ方・魅力に触れてみました。

ご参加をお待ちしております。

aikur」となつてきました。俳句を詠むことで日頃は意識していなかつた周囲を観察し、言葉にすることで脳の活性化にも繋がりがり、ひいては認知症予防にもなるといわ

俳句を詠まれた経験はありますか？

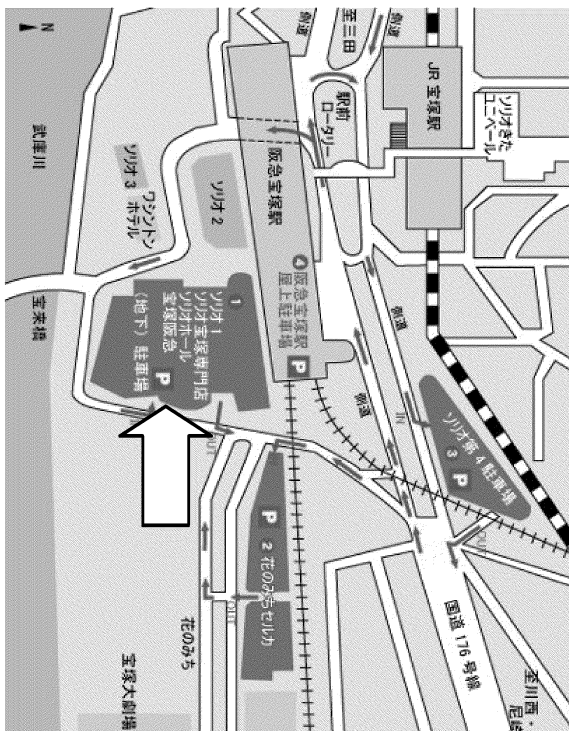
參加費 無料

TEL 0797-81-8200)

(宝塚市栄町2丁目1番1号 (ソリオI 3階))

日時 十一月 十九日(土) 午後三時～
会場 ソリオホール会議室三〇三

右脳俳句を
楽しんでませんか



会場は矢印の建物の3階です

(1 面のつづき)

最後に、オーラルフレイルを防ぐためには定期的な受診が必要であるが、日本では歯科を定期受診する割合が低いことを指摘。お金の心配なく安心して受診できるように、高すぎる窓口負担を引き下げることや国民皆保険制度を守ることが重要だと訴えた。

寄せられた感想文紹介

- ・定期健診を受ける割合がわずか 1.5%程度というのは一般人の意識改革も必要であるが、それ以上に貧困やかかり控えも大きな問題なのだと改めて実感した。(歯科医師)
- ・とてもすばらしい講演でした。歯周病検診(健診)などだけが住民の意識を変えるのではなく、その後定期的に健診を受けて、自らがその重要性を認識いただくためのヒントを本日いただけたように思います。(歯科衛生士)
- ・歯のケアの大切さがよく分かりました。興味深い講演内容で楽しく聞けました。窓口負担が減るのは大いに賛成。実現して欲しいですね。(一般参加者)

兵庫県保険医協会北阪神支部 < 2016 年度方針 >

- 1 医療・社会保障制度の充実と、公的医療保険制度の拡充・矛盾点の改善を目指し、地域間の情報交換や情勢討議、会員・市民と対話する企画の充実をはかる。
- 2 「社会保障・税一体改革」に基づく社会保障切捨て施策の実行を阻止するために、地区医師会など他団体との懇談、交流を推進する。
- 3 老人会や自治会との語り合う会を開催し、予防医学的な健康増進の話とあわせて、医療改悪の実態を住民に広く知らせていく。ワクチンに関しても、エビデンスにもとづく情報を提供する。
- 4 会員拡大は、新規開業医を中心に組織率を上げていき、協会平均をめざす。また、支部活動活性化のため、医科・歯科若手役員の確保に努める。特に、川西市・猪名川地域での支部幹事発掘に努める。
- 5 在宅医療研究会、臨床研究会などを開催し、地域医療の連携をはかるとともに、医科・歯科一体の活動を強め、共通するテーマで研究会を開催する。
- 6 職員接遇研修会、医療安全管理対策研修会などをスタッフ研修の一環として開催する。
- 7 医院経営問題など、会員が共通するテーマでの会員懇談会を開催し、自由にディスカッションできる場をもつ。
- 8 会員や家族、従業員が気軽に参加できる、文化行事を企画する。
- 9 支部ニュースは、会員投稿コーナーなど内容の工夫もしながら、読まれる交流紙として紙面の充実をめざす。
- 10 社会保障をよくする伊丹の会・同宝塚の会に役員・事務局とも参画していく。
- 11 医療団体として、各地の平和運動や戦争に反対する取り組みに協力する。
- 12 原発問題について、学び、討議する。

在宅医療研究会

多職種の連携で支える
神経難病の在宅医療

支部は 9 月 3 日、第 11 回在宅医療研究会を伊丹市産業情報センターで開催。「神経難病の在宅診療～当院の経験から～」と題し、つちやま内科クリニック(西宮市)の土山雅人先生が講演。医師、歯科医師、看護師、ケアマネージャーら 97 人が参加した。

土山先生は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病について解説。患者がどのような医療器具を利用しながら、それぞれの生活環境で暮らしているかについて説明。

後半では、筋萎縮性側索硬化症に焦点をあて、在宅療養において問題となってくる呼吸苦・呼吸困難の緩和や、症状の進行に伴って意思疎通が困難・不能になってくる状態について自身の臨床経験から紹介した。また、「神経難病の在宅療養を支えるためにわれわれができること、すべきことを、すでに神経難病に接している各職種の方のみならず、これからかわるであろう方々と共に考えていきたい」とし、様々な職種が連携して在宅医療の現場を支える大切さを強調した。

参加者からは「事例を多くあげての解説が大変参考になった。様々な居住環境で、各々が終末期を迎えていく中、チームケアとしての役割を果たせるのか、不安は大きいですが、まず病気をよく知ることが大切と感じた」「先生が関わられた実際のケースもきかせていただき、自分が関わった方とも重なり、とても分かりやすい講義でした。今後も在宅診療を行う医師や他職種の方ともたくさんかわり、ALSをはじめ神経難病の方のお手伝いができればと思います」といった感想が寄せられた。



自らの臨床経験から患者への対応などについて語る土山先生



幹事会だより

第 350 回 10 月 6 日 (木) 伊丹市産業・情報センター会議室 参加 6 人

◆北阪神支部の会員数と組織率

10/4 現在 医科 328 人 (72 %)、歯科 182 人 (56 %)

◆情勢と医療運動対策

①介護保険総合事業などの情勢②俳句企画 (11 / 19)、新春政策研究会 (1 / 21) などについて意見交換した。

◆次回幹事会 11 月 10 日 (木) 18 時～ 於・伊丹市産業・情報センター
お問い合わせはTEL 078-393-1817 有本・横山・小川まで